

「神の智恵」

～神の計画の真意～

マタイ 11:18 ~ 30

■ 神の叡智にたって歩む1年に

「叡智」とは・・・「叡」には骨から肉を抉り取るという意味があり、人の意を超えた遙か上の知恵、物事の真髄を探る知恵を意味します。今日、私たちには知恵が与えられていますか、その知恵は物事の本質が備わっているのでしょうか。神の叡智にたって歩むために私たちはどうしたらよいのでしょうか。

■ 智恵の要素とは

マタイの福音書 11 章 19 節と 25 節に「知恵」という言葉がでています。19 節の知恵はソフィア（原理的、究極的なものに関する完全な知恵）を意味しており、究極にして永遠なるものを知る知恵です。それに対し 25 節の賢い者や知恵ある者は長い間生きた人が物事に対し慎重に物事を測ること、知識がたくさんあることを意味します。私たちは物事の良し悪しをはかるとき、もし自分の生き方に照らし合わせて評価をするなら、それは後者の知恵であり、この世の知恵で物事を判断する人に神様は奥義を隠されます。私たちはこの世の知恵によらない子どものように、目の前にあるものを素直に感じとることが大事です。幼子のようにないと神の国をみることができないように、子どものような発想の中にこそ答えがあるものです。時に子どもは大人より鋭い見方をし、物事の本質を見極めようとします。それがソフィアの知恵なのです。

■ ヨセフとマリアの生き方に学ぶ

イエス様の父母であるヨセフとマリアになってみたいと思う人は果たしてどれくらいいるのでしょうか。確かに時代の主人公、救い主の父母という大役が与えられましたが、彼らは自分たちが立てていた計画をことごとく覆される人生を歩みました。これから夫婦となり共に歩いていこうとしていた矢先に妻の妊娠が分かったヨセフ。まだ天使から告げられていない時でしたから大切な人に裏切られたと思ったに違いありません。マリア自身もそのようなことが分かれば死罪にあたる時代だったので「どうぞこの身になりますように」と言う事だけが難いことだったのでしょうか。その後もイエス様を守るために身を隠さなければならぬ日々を送り、最後には愛する子が十字架に架からなければならぬなど様々な困難に遭遇します。しかしヨセフもマリアも神様から与えられた人生を選び取りました。ここに神の智恵があるのです。

■ 神様の計画≠自分の計画のとき、すべきこと

私たちが立てる計画のなかで、神様と共に歩んでいるうちに「これは違う」と思わされることはないでしょうか。初めは御心だと信じてやってきたことも、だんだんと神様の御心でないと感じ、神様の計画ではないと確信するに至ることもあります。御心でなかったことに落胆することもあるかもしれません。しかし、神様の計画は自分計画と違って、最終的には自分の願いをも成し遂げ、それ以上のものを得させてくださるものです。神様の智恵は私たちが思うよりもっと深いところにあるので、神の真意を知ることが大切です。私たちはすぐに道はずします。しかし不思議とそのズレた道を歩むときに神様の正しい道に気づかされます。ズレたことで問題が起りますが、そこで私たちは自分ではなく神様をみようとし、真剣に神様を求めます。そ

から神様の真の智恵が溢れるのです。結果私たちは整えられ、神様の栄光があらわされることになるのです。

■ 神の計画に生きる たとえ己の計画と違えども

私たちは現実というものが私たちの人生を無にするということを知っておかなければいけません。私たちは人の評価が伴う現実で心を奪われてはいけません。なぜなら神様が見ておられるのは現実ではないからです。現実とは間違った道に進んだ結果の出来事であり、現実はずべての人が「自分の計画」と「神の計画」のどちらかを生きました。自分の計画に生きた人はどうなったのでしょうか。自分の計画に生きたいと思いがらも神様に立ち返り神様の計画に生きた人はどうなったのでしょうか。それぞれがその道に生きた結果が記されています。また、忘れてはならないことは「聖書は決して失敗しては成らないとはいっていない」ということです。失敗は私たちの人生に絶えず起こり得るものであり、そんな弱い私たちが神様は同情できない方ではないと聖書に書かれています。神様は人が失敗することはよく理解されています。しかし失敗したときに私たちがどう生きるかを神様は聖書を通して伝えてくださっています。私たちクリスチャンが選ばなければならない道は後悔の道でなく、この世の知識で向き合う道でもなく、様々な出来事の中で神の奥義を見出し、問題の中であって神の栄光をあらわす道です。神様はすべてのマイナスを通して最後にプラスへ変えてくださる方ですから、神様に期待していきましょう。必ず神様は私たちが願うよりもっと良いものを用意してくださっています。今般、私たちは様々な災害や日々の問題と向き合っています。そのような時、私たちは何を備える必要があるのでしょうか。それは現実的な安全の備えだけではありません。常に心を敏感に研ぎ澄ませ、予定とは違う事が起こったときに行動できる神の智恵が必要なのです。そして箴言 19:18-23 のみことばから、この世のルールでなく神様の前に出ることを第一とすることを受け取りましょう。主を恐れるなら、いのちに至り、満ち足り災いに遭われないとされています。また、私たちは怒りを捨てなければいけません。なぜなら怒ると人はなにも聞けなくなるからです。怒りは訓戒に反するもので、怒ると持論が強くなり神のみことばが聞けなくなります。正しいものを無にし、みことばから私たちを引き離すものは憤る怒りです。知恵あるものは聞くには早く、語るには遅く、怒るには遅いようにしなければいけません。

まとめ

もし、今歩んでいる道があなたの計画と違うならば、主がそこに恵みをもたらそうとされているのです。クリスチャンの人生は自らの計画とは違う生き方をしなければいけないことばかりかもしれませんが、しかし結果、あなたが願ったことは何倍にも増し加えられて神様によって完成されるのですから、私たちは神の永遠の智恵を実行するものになり、自らの計画を主に委ね神の計画に生きる人生を歩みましょう。神の智恵に生きる1年が豊かに祝福されますように。

(要約者:平澤 瞳)

(2019年1月6日)